

はづ

No.6

羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会

昭和57年6月25日



みなさんの力作がずらり……

第2回 文化作品展がひらかれました

さる3月14日から16日までの3日間にわたり、地区の第2回文化作品展が昨年にもまして盛大に開催されました。

会場となったセンターの2階ホールには、日ごろの腕によりをかけた皆さんの力作、労作がところせましとならべられ、鑑賞におとずれた人たちの目をたのませました。展示された書道、水墨画、生花、手芸、盆石、俳句などの作品は200点ちかくにものほり、羽津における文化活動の輪のひろがりを実証しました。

当日、1階の日本間では、煎茶サークルと婦人会のみなさんによる湯茶のサービスも行なわれ、こちらのほうも大好評でした。

さらに、3階の図書室では、おなじく第2回目の将棋大会も開催され、力のこもった名勝負がくりひろげられました。

この作品展、本年度も年が明けての3月ごろにひらく予定です。ご期待ください。



さて、どうさすのかな？
——将棋大会もやりました

また、また特集

なまじいおやぢなな子供たち

今回もまた、子育ての問題をとりあげました。「またか」とうんざりされる方もあるでしょう。

しかし、問題ははまだ解決されたわけではなく、依然として深刻化の方向にあることは、まぎれもない事実なのです。

この地区広報「はづ」では、子供たちの健全育成という目標が達成される日まで、今後も粘り強く執拗にキャンペーンをつづけていく予定です。

そこで、本号では、地区における教育機関より各校園長さんにお集まりいただき、「いま子育てにもとめられるもの」というテーマで色々と話合っていました。ぜひ、ご一読ください。

司会 子供たちの心身の両面

における色々な問題が顕在化するにつれて、学校、家庭はもちろん、地域社会としても子供たちの健全育成に積極的にとりくむことが、強く要請されることとなっております。

本日は、教育の現場におられる先生方より、具体的な問題点とその背景、原因および今後の子育てのあり方といったことについて、忌憚のないご意見を聞かせていただきたいと思います。

まず、現在、問題点をどのようにとらえてみえるのかということからご発言ください。

めだつ基本的な生活習慣の欠如

今村 私は、子供たちの生活態度に接していて、何よりも家庭でしつけられるべき基本的な

座談会

いま子育てで「ズバリ」これがいい!

ご出席のみなさん

(五十音順、敬称略)

- ▶今村 学 (羽津文化幼稚園理事)
- ▶内田和子 (羽津幼稚園長)
- ▶田村節生 (羽津北小学校教頭)
- ▶橋本了諦 (みのり保育園長)
- ▶長谷川フクエ (羽津保育園長)
- ▶森 茂男 (羽津中学校長)
- ▶山中久二 (羽津小学校長)
- 司会 平子未春 (社会教育指導員)

生活習慣が身につけていない子供が多いのにおどろきます。



他の子に乱暴する子、我慢する心がなく自分の思いどおりにならないと嘯みつく子、協調性、社会性に乏しく集団であそべない子など、あげていったらきりがなくいろいろあります。

その他にも、情緒不安定、感受性に乏しく表情もかたい、過度に神経質でオドオドしている、他人依存の傾向が強く自主性や

創造性が欠如しているなど、身体的あるいは精神的に何らかの欠陥をかかえた子供たちが、少なからず目につきます。

これらは、保育園や幼稚園へ入ってくる以前、つまり家庭でのしつけの段階で、すでに問題があったとしか考えられないことであり、この時期における家庭での教育のたいせつさを痛感



いちばん大切なのは
………… 親自身の真剣な生きざま!

疲れやすく、朝からあくびばかりしている子などが、たえず見つけられます。

また、アトピー性皮膚炎の子が多いのも、いささか気になる場所です。

問題は子供よりも親のほうに



園へみえるお母さん方

内田 子供たちについていえば、そのとおりなのですが、問題があるのは子供たちばかりでなく、むしろ親のほうにあるといえないでしょうか。

その結果として、子供たちの行動や生活態度にも一貫性が欠如してくるのは当然であり、それが最も大きな問題であるような気がします。

橋本 私の場合も、ちかごろいちばん身につまされるのは、親御さんから子育てで自信がないということをお聞きされることです。

私たちが、はじめて親になった時も自信はなかったのですが、しかし、その自信のなさをカバーし、バックアップしてくれる

何よりも大切な幼児期の子育て

田村 羽津へ来て日も浅いので、当地の子供たちの特色などはまだよく解りませんが、一般的にみて、さきほどから述べられていっているとしたいと思います。

ただ、子供たちの悪い面ばかりを見ているのは問題で、どんな子でも、いい面を持っているのですから、それを評価して伸ばしてやることも、大切なことではないでしょうか。

森 いずれにしても、よく言われる三才までの幼児教育が重



ります。

しかし、羽津中学校の場合、比較的温厚かつ柔順で、社会的

子供に「させる」のではなく「子供が「する」条件づくりを!

司会 子供たち、あるいは親や大人たちをめぐっての多面にわたる深刻な問題点をあげてい

ただいたわけですが、次に、そのような問題点が生じてきた背景とか原因とかをさぐってみていただけないでしょうか。

山中 やはり、核家族化と近隣社会の衰退によって、子育てをささえるバックボーンというもの

森 いま、子育てという時、子供にあれをさせ、これをさせるといふ方法や手段を考えすぎ

ない存在だから、育ててやるのだという発想のあらわれです。

しかし、子供は、本来、親や大人たちが必要以上の加工をくわえなくとも、自分で育つ能力をもっているのです。だから、

距離感

子育てにありがちなことは、わが子を目の中へ入れ

目の中へ入れられ、あるいは膝の下へ敷かれた子供たちにしてみれば、さぞかし痛いだろうし、窒息するほど苦しいことにはちがいない。

まうということである。前者を過保護といい、後者を過支配とよぶ。いずれも、子供に「まかせろ」ということをせずに必要以上の干渉をおこな

は、子育ての場合にかぎらずすべての人間関係に通じる原則であり、問題の多くは、これをおかすところから生まれてくる。要注意である。

子供の能力をもっと信じてとです。そして、さらに必要なのは、親や大人たちが人間として精一杯に生きてみせることで

長谷川 たしかに、物質はふんだんに与えるけれども、心を与えていないケースが、たびたび見つけられます。



親としての本當の愛情に欠けてい

るわけで、そういう条件下で育った子は、幼児の段階からよくぐずるし、いつも不機嫌で、他人に甘えるなど、性格形成に暗



のびのびと遊ぶ子たちに非行なし

— 伝承あそびをたのしむ羽津山の子供たち

要なポイントです。なぜなら、その時期における子育ての歪みや誤りが、中学生になってまでも深く濃く影響をおよぼしているからです。

それには、中学生になると、思春期にさしかかることもあって身体的、精神的にきわめて不安定な状態下におかれ、ともすれば暴力的かつ破壊的な衝動にはしりやすくな

い影をおとっています。親自身がなりふりかまわず、自らの人生を生きて、また子育てにもあたるという姿勢が肝心だと思えます。子供は、たとえ乳児で言葉がいえなくても、親の心を全身で感じとっているのですから、親子のスキンシップ

今村 子供たちの自発的行動というものを尊重することが、ぜひとも必要です。子供が勝手に何かをしようとしている前

前頁からつづく

に、親が口を出しすぎて、せっかくの自主的な発想や発言の芽をつんでしまっていることが多いのではないのでしょうか。また、自分の子どもを中心に

まず、おとなたちから 生き方の手本を示そう!!

司会 問題の因つてきたるところは、子供たちにあるのではなく、むしろ親と大人たちの側にあるのだということが明らかにされてきたわけですが、それでは、今後、何をなすべきかという点について結論づけたいと思います。



田村 さきほども言われているように、最終的には、親、教師、そして大人の生きざまがすべてであり、それがそのまま子供たちの性格や生活態度に反映していくわけですから、私たち大人自身がまずからの生き方を謙虚に反省し、改めるべきところでは直ちに改めていくべきです。

考えすぎ、他人の子はどうあるうと知ったことではない、という態度にも、子供の成長をねじまげる原因があると思います。過保護、過干渉を排し、他人の子をもふくめた広い視野で、子育てにあたるのが、緊急に求められているといえます。



今村 私も、第一に親の生き方を正すことが先決だと思えます。親は子の鏡でありますから、子供のしつけをうんぬんする前に、まず親が自分自身をしつけるべきです。日常のあいさつマナーから、人生に立ち向う厳しい姿勢にいたるまで、親が率先して手本を示すことであり、子供の前で夫婦喧嘩をしたり他人の悪口をいうのなどは、まさに論外です。

将来への目標を はつきりと...

森 地域のみんが力をあわせて、子供が育つ(育てるのではない)環境づくりをすすめることです。また、子供は自分と同じ目の高さで育つといわれるように、友だちと遊ぶことにより健康やかに成長するのです。ところが、今の子供たちは、全身全霊をうちこんで遊んでいない。時間も場所もない。子供の遊びを、いかに助長し保証していくかという点も、おおきな課題です。さらには、さつきも言いましたように、子供たちに将来の目標と展望をしっかりと持たせる



橋本 今は、核家族で共働きのため、乳児期から保育園へ預けられるケースも多く、それによつておのずと子供に接する時間が少なくなるわけですが、それをおおきなためにも、中味の濃いスキップを工夫していただきたいと思います。

長谷川 きょうは、大変いい勉強をさせていただきました。地域における教育機関の夕方のつながりを深めるためにも、こうした機会を今後も設定していただきたいと思えます。司会 本日は、貴重なご意見を賜わり、ありがとうございます。センターとして、本日のお話を参考に、「伝承あそびの日」の運動を中心とした有効な活動に取組んでいくつもりですので、皆様のご協力をよろしく願います。

もつとひろがれ! 伝承あそびの輪

座談会を終えて

社会教育指導員 平子末春

このたびの座談会において明らかにされたことは、子供たちにあれこれと口出しする前に、親と教師をふくめた大人たちが反省し、みずからの生き方を反省し、或いは確立しなければならぬという、その一点につきると思えます。学校教育が発足して、およそ百年。その間、学校教育が果たしてきた役割には、きわめて大きなものがあるのですが、一方では、家庭と社会のもつ教育的機能が十分に認識されず、等閑視されてきた



ここに、従来の学校教育万能主義をきびしく反省し、家庭および地域社会の教育的機能を回復せしめるとともに、いわゆる生涯教育の観点に立つて、大人たちが子供たちに負けないくらい自己学習、自己開発をかさねるべき必要性がうまれてくるのです。子供たちに勉強をおしつける

前に、大人たちが一生懸命に勉強する姿、生きる姿をみせようではありませんか。また、地域における大人どうし、子供どうし、さらには大人と子供たちの間の親密なコミュニケーションをとりもつために、新しい地域社会づくりを推進することも急務の課題であります。親たちが、地域活動にすすんで参加する姿を見せることは、子供たちにも必ずや良い影響をもたらすもの信じます。いま、羽津山町をモデルに展開されている伝承あそび(集団あそび)の運動は、地域社会づくりと子供たちの健全育成、それに知育偏重にある大人たちの発想の転換をもめざした、多目的かつ有意義な運動であります。各町におかれましても、今後、この運動に積極的に取り組んでいただきますよう、強く訴えてやみません。

あなたの子育てのモト-は?

街頭インタビュー



子供たちをめぐっての憂慮すべき事態が頻発するにつれ、今日ほど子育ての問題が切実となり、また大きな関心をよびおこしている時はありません。日ごろ、みなさんは、どんな考えや態度をもって子育てにあたっておられるのでしょうか。羽津の路上でお会いした方たちの声をうかがってみました。

父親の場合

今、子育ての知識や情報が多すぎて、かえって親を混乱させ萎縮させているように思います。そんなものに惑わされずたとえ自己流であってもよいから、ひとつの信念を持ち、それをつらぬきたいと思っています。(41才)

子供の顔をうかがい、びくびくしている、そんな親にだけはなりたくない。その一言です。(38才)



「子供より親が大事」とは、今は亡き無頼派の作家のことですが、意味深いものがあると思っています。そういう開きなおりをもつて、子供とクールにつきあうのも、お互いにしんどくなくて、いいんじゃないですか。(29才)

空気が、水、太陽。ふだんそれらの存在が意識されることは少ないわけですが、生物の成長にとつては欠かすことのできないものです。子育ての理論も方法もよくわからず、ただ子供と平凡に接しているだけの毎日ですが、いつの日にか子供から「空気、水、太陽であった」といわれる親でありたいと考えています。(43才)

やっていただきましたか? 『子育ての点検12項目』

昨年の7月に各戸配布した「子育ての点検12項目」のご感想はいかがでしたでしょうか。もう一度、項目を掲げておきます。ぜひご点検を!

- 1 子供にとにかくいう前に、親自身が人間らしくいきいきと生きていますか?
2 子供の個性をみぬき、また、それを尊重していますか?
3 色々な情報にふりまわされ、子育てに神経質になりすぎていませんか?
4 子供の言いぶんを耳をかたむけていますか?
5 子供をのびのびと遊ばせていますか?
6 親ばなれ子ばなれの距離がとれていますか?
7 叱るべき時には叱り、ほめるべき時にはほめていますか?
8 わが子さえよければ、という姿勢はありませんか?
9 人を物を自然を愛する心をそだてていますか?
10 子育てを母親まかせにしていませんか?
11 個室を与えっぱなしにしていませんか?
12 家の手伝いなど、労働を体験させていますか?

母親の場合
うーん、やっぱり、しつけどと思えます。最近、非行の低年齢化と悪質化がめだつと聞きますけど、昔の人が言ったように、三才までに厳しくしつけることが大事だと考えます。(38才)

現代の風潮としては、あまりにも理屈で子供を育てようとしているようですが、それ以前の問題として、親が人間としての知恵をもたなくてはと思ひ、努力しているのですが...(31才)

お年寄りの声
今の親のやることは、わけがわかりません。路上で子供がクダをこね、父親や母親を叩いたり、蹴ったりしているのに平気で笑っているかと思えば、人ごみの中なのに、わが子を大声で口汚なくののしっている親もみかけます。何が将来の子供のためになるのか、もつと長い目で考え、けじめのきちんとした子育てをやってほしいものです。(71才)

おしらせ版

第12回ソフトボール大会

青空のもと熱戦が続出!



男子 羽津中B
女子 鷺町 が優勝

さる五月十六日の日曜日、地区のソフトボール大会が例年どおりに富士電機のグラウンドで開催されました。
こととして、第十二回目をむかえたこの大会、主催は羽津地区社会福祉協議会となっておりますが、実施するにあたっては体育

振興協議会のみなさんに全面的な協力をいただいております。
当日は、絶好の五月晴れにめぐまれ、各町から選ばれた精鋭の男子二十四チームと女子十一チームが、それぞれに熱のこもったプレーをくりひろげました。

その結果、男子は羽津中Bチームが優勝。女子は、鷺町チームがみごと勝利の栄冠を手に入れました。
おもな試合結果は、つぎのと

【男子の部】	
準々決勝	大宮西 7-4 城山
準決勝	鷺町A 4-2 別名四
決勝	別名二 8-4 白須賀
準決勝	羽津中B 1-0 鷺町A
決勝	大宮西 3-2 別名二
準決勝	羽津中B 5-2 大宮西
準決勝	羽津中 16-0 大宮
決勝	鷺町 17-4 緑ヶ丘
決勝	鷺町 2-1 羽津中

予定どおり四月に開校

記念式典もおわる

羽津北小学校

羽津小学校から分離するため、新築工事がすめられていた羽津北小学校は、三月末に完成。四月から、二七名の教職員のみなさんと五八四名の児童が新しい校舎にはいり、立派な校風づくりをめざして、勉強と運動にはげんでいます。
また、六月五日には、市教育委員会の主催による開校式が開かれ、式の後には地区連合自治会が主催の祝賀会もひらかれました。
式場では、市長はじめ来賓各位の祝辞、市教育委員会からの校旗授与、そして連合自治会より児童への記念品がおくられるなど、羽津北小学校の発足を祝福するにふさわしい式典でありました。
その後、新しいブルーの建設工事も着工され、つづいて屋内



バドミントンクラブ

羽津のバドミントンクラブってご存知ですか？
結成して、早くも2年。技術はまだ未熟ですが、仲間づくりと健康づくりをめざして、一生懸命、練習に励んでいます。
初心者、経験者を問わず、入部を歓迎しますので、どしどしおでかけください。

- 練習日
 - 毎週 水・土曜日 羽津中学校体育館 午後7:00~9:00
 - 〃 水曜日 羽津小学校体育館 午後7:00~9:00
- 連絡先 別名3丁目 藤本 勝 (☎32-4361) か各町の体育振興協議会委員へ

ママさんバレー “集まれ、ファイトママ”

若さと健康をたもつため、バレーボールをしてみませんか？
スポーツのお好きな方なら、どなたでも歓迎します。ぜひ、ご参加を！

- 練習日
 - 毎週 火曜日 羽津中学校体育館 午後7:00~9:00
 - 毎週 金曜日 富士電機体育館 午後7:00~9:00
- 連絡先 南いかるが町 伊藤美幸 (☎32-8844) か各町の体育振興協議会委員へ



美容と健康づくりに 快適な汗を流して……

美容体操サークル「さんび」

3B体操って、ご存知ですか？ ヨガあり、ジャズダンスあり、その他いろいろ々軽快な音楽のリズムにあわせて体をうごかす楽しさは、最高です。
やせすぎ、ふとりすぎて悩んでいるらっしやる方々、楽しみながら美しく健康になれるなんて、女性なら誰でも思うこと。
それが、このサークルでは実現するんです。みなさんも、お家にとじこもっていないで、私たちと一緒に汗を流してみませんか？
くわしくは、別名2丁目の奥田(31-8008)まで



俳句

へ志氏ケ野句会より

村田青麥選

葦蟲の枯枝に揺らぐ日のうとし
別名二丁目 伊藤 朝子
花馬酔木もぐら除けとて畑に挿す
羽津町 大森みつゑ
農婦来て田螺の減りしことをいふ
白須賀 加藤よ志ゑ

畦火燃え鈴鹿雪嶺の白たしか
城山町 川合光津子
戦死せし弟の齡葉桜に
城山町 川本 ふみ
通園のバス待つ母等朝桜
城山町 片岡とき代
溢れ咲く馬酔木の白に瀧近し
白須賀 館 二三子
梅の咲く段々畠の見ゆる宿
羽津町 藤井 築城
師を訪へば花三極の日を満たし
羽津町 藤井まきへ

日のこぼる我が身の影に菊根分
羽津町 藤井まき女
芝に立つ揚羽の影の濃く動く
大宮町 武藤 弘子
花見客降し貨真産舟戻る
城山町 宮田 健三
飛び交ふる蛇のはげしき繭の花
金場町 森 房子
春雨の軒に荷を置き花売女
大宮町 山本 幸
木洩日の溢る落葉に地蟲出づ
鷺町 安田 源吉



近世の村のようすを知る手がかりは、いろいろとあるものです。
たとえば、村の実態を知るものとして、各村々の庄屋から藩庁へ提出された村明細帳とか村指(差)出帳などがあります。

しかも、うまいぐあいにこの四日市周辺では、宝永七年に桑名藩主の国替えがあり、翌年、各村々に対し極めて細部にわたる指出帳を提出させております。

宝永8年(1711年)の 朝明郡鷺村指出帳より

羽津町 松原 美智雄

その原本が、東京都豊島区目白の徳川林政史研究所に保存されており、さいわいにも、その中に朝明郡羽津村、鷺村、別名村、八幡村、吉沢村などの村指出帳が残っています。これにより、当時の羽津地区の村々のようすを概略的につかむことができます。
ここに紹介いたしますのは、鷺村の指出帳の一部です。

以上、ごくかいつまんで紹介いたしました。NHK大河ドラマ「峠の群像」の一つのポイントとして経済からの視点があげられていますが、この指出帳をみても、十八世紀ごろになると商品および貨幣経済の発達により、従来の年貢取立て(米経済)だけでは藩の財政がまかなえず、現金収入の道をさぐりはじめていたことが、はつきりと窺えます。

人口は、二二五人。そのうち、一七人が本百姓、高持(年貢を納める義務を負った者のことをいう)。男子は六五人で、そのうち十五才以下の子供が一八人いた。女子は五二人。残りの一〇八人は、水呑み百姓であった。

家数は、四四軒。その他寺は、本願寺派の浄恩寺。氏神として、齋宮大明神と天武天皇社の二社があった。

草にするために刈りとった草に対しても高額の課税がなされている。加えて、畑作に課される畑金(二両余。その他、小豆、大豆、麦、稗等の雑穀が七石余。当時、馬はたったの一疋と記されている。また、米を納めるときに労役に服した者が二人。米を納めるにあたっては、一石につき三升を付加させたという。これは、米をはこぶ際に途中でこぼれ落ちる分量を見込んで付加させたものだといわれている。

各町めぐり

④ 鶺鴒町



自治会長

伊藤 一さんに訊く

——さいきんの町のようすは、いかがですか？

伊藤 わが鶺鴒町においても、十五年くらい前から急に宅地の造成がすすみ、現在、戸数も二百八十余にふくれあがって、旧村のそれをはるかにしのいでいます。

人口は急増したが

町運営はスムーズ

——新しく町にはいつてこれられた方たちが多くなったというわけですが、そのことによって町運営などに変化がありましたか？

伊藤 特にこれといった変化はありません。今のところ、新旧の方たちに、うまく手をむすびながらのスムーズな町運営をさせていただいておりますし、大きな問題はないので安心しているしだいです。

——近年、地域づくりというところが叫ばれていますが、何かと取り組んでみえますか？

伊藤 やはり、この町に住む人たちどうしの交流が大切ですので、それをほかるための行事を考えているのですが、なかなか難しい面があります。ただ、毎年八月の太子盆のときに

は盆踊り大会をやっていますし、秋の大祭の節には、婦人会や子供会の協力による書道展や生花展をひらいています。ざっと、そんな程度です。今後の方向としては、町における色んな団体との連携を深めるために話しあいの場を設定し、そうした団体を中心にした町づくりをはかっていきたいと考えております。

昔からの

民俗行事を保存

鶺鴒町には古くからの伝統行事があるとうかがっていますが……

伊藤 代表的なのは、毎年御嶽祭の前夜にあたる二月十五日に行なわれる「日待ち」の行事です。これを行なうには、まず一月八日の「初奇りあい」の際に伊勢神宮への代参人二名をきめます。代参人は、二月十日までに伊勢参宮をして御札をもらってこなければなりません。そして二月十日の晩に、伊賀留我神社の御札をつかって「神くじ」をし、「日



「日待ち」のしめなわ作り

健康づくりにゲートボールを！

今秋には大会も予定



本年度、当地区では、健康づくりと地域づくりの一環として、子供からお年寄までが一緒に楽しめるゲートボールの普及を計画。春風会と体育振興会の協力を得て、すでに第1回目の講習会をおわりました。

今秋には、大会も予定しています。みなさんも、ぜひ一度、いかがですか？尚、用具をセンターにて貸し出しますので、大会にむけての練習にはげてください！

みなさんもやってみませんか？
とっても楽しいですよ。

子育ての本、貸します

センターでは、みなさんの子育ての知識を深めていただくとう、次のような図書をそろえました。
貸出しをしますので、お気軽にご利用ください。

- ◇依田 明 「やさしくほめて厳しく叱る」
- ◇平井 信義 「けんかを忘れた子どもたち」
- ◇金沢 嘉市 「人間にくずはない」
- ◇丸木 政臣 「豊かな子どもを育てるしつけ」
- ◇久徳 重盛 「母原病」「続母原病」
- ◇吉岡たすく 「親ばなれ子ばなれ」
- ◇佐野 豪 「遊べない子は育たない」
- ◇詫摩 武俊 「幼児の発達としつけ」「性格の生かし方」
- ◇品川 孝子 「親がしつけで迷うとき」
- ◇俵 萌子 「わが家の受験戦争」
- ◇村松 喬 「親が学校をタメにする」
- ◇ザルツマン 「かにの本一子どもを悪くする手びき」
- ◇中川 正文 「子どもに嫌われる12章」
- ◇羽仁 説子 「父親の役わり母親の役わり」
- ◇品川不二郎 「個性の見つけ方伸ばし方」
- ◇小松 福三 「これでは子どもは育たない」

あとがき



今回もまたまた、子育ての問題をとりあげました。結論は、私たちおとな自身の発想の転換ないしは意識の改革が求められているということです。みなさんのご意見を

をお寄せください！
編集メンバー

- ◇武藤秀雄（社教推進委員）
- ◇天野平一（「」）
- ◇岡屋孝子（羽津中PTA）
- ◇小平容子（羽津小PTA）
- ◇酒井マチ子（北小PTA）
- ◇奥山幸市（青年団）
- ◇羽津地区市民センター

羽津の人口

（昭和57年4月末現在）

男	6,529人	-16
女	6,548人	+54
合計	13,077人	+38
世帯数	3,849世帯	+52

前回比